

生誕一二〇年 人間国宝

黒田辰秋

木と漆と螺鈿の旅

作品鑑賞のための用語集

「本展は作品集『黒田辰秋 人と作品』に沿いながら作品を紹介する第1部、民藝や技法などの複数のテーマを設けた第2部の構成で、家具や調度から掌でめでの逸品まで、木漆工芸家、黒田辰秋の多彩な作品を展観しています。

素材にこだわり、木工と漆工の技を駆使した黒田の作品名には、技法素材や文様など作品を理解するための手がかりがいくつも含まれています。この用語集は、展示作品の作品名に含まれる様々な用語について、「技法」「素材」「道具（形状）」「文様」の4項目にわけて簡単な解説を加え、作品を理解する一助とするものです。」（各あいうえお順に掲載）



二〇二五年
三月十五日 | 土 |
五月十八日 | 日 |
主 催 豊田市美術館
共 催 京都国立近代美術館
中日新聞社

豊田市美術館

こ ま 独楽	色漆で同心円文を描いた器。
なかつぎ 中次	円筒形で、胴の中間に蓋と身の合口がある棗。
なつめ 棗	薄茶を入れる木製漆塗の器。果実の棗に形が似ているため名付けられた。
ふりだ 振出し	茶道具の一種。金平糖や干菓子などを入れて茶会の最中に客に供する。
へんこ 扁壺	胴が扁平な壺形の器。

「文様」

だいまようじま 大名縞

縞と縞の間の地あきが、縞の太さの倍以上ある細かい縦縞文様。

たからむすびもん 宝結文

長寿や繁栄をあらわす縁起の良い紋。

ちようかいもん 彫花文

ちようかいもん 彫華紋

中心点からよじれながら四方に広がる稜線が特徴的な、黒田の代表的な文様。

りゅうりようもん 流稜文

頂点から作品の表面に沿って流れるような螺旋を描く、平面と曲面が一体化したような黒田独特の文様。



Kuroda Tatsuki

A Journey Through Wood, Lacquer, and Mother-of-Pearl

Held in Commemoration of the 120th Anniversary of the Living National Treasure's Birth

March 15-May 18, 2025
Toyota Municipal Museum of Art

「技法」	いじ 沃地	表面の凹凸が特徴的な風合いを生み出す技法。沃懸地。
	きじろいろ 木地蠟色（塗）	透漆を上塗りして木地の木目を生かす技法。
	きんかまくら 金鎌倉	黒漆の上に金箔を貼り、さらに朱漆を塗る技法。
	ぞうがん 象嵌	金属、陶磁、木材などの支持体の表面に、金属、木、石、貝などの様々な素材をはめ込む技法。
	ためぬり 溜塗	透漆を上塗りで用いることで、木地の木目や色漆の中塗りを透かして見せる技法。
	ねころぬり 根来塗	黒漆の中塗りの上に朱漆を塗って仕上げる技法。長い年月を経て朱漆が部分的にはげ、黒漆が表れた様が茶人に好まれた。

	びくだんぬり 白檀塗	金箔や銀箔、金銀泥の上に透漆を塗って仕上げる技法。
	まきふんぬり 蒔粉塗	漆で描いた上に金粉や銀粉などを蒔く技法。

「素材・木」	くろがき 黒柿	柿の木の成分タンニン（柿渋）が影響して心材付近が黒変すると考えられる。濃淡のある縞が入るものと一面黒くなるものがある。
	けやき 欒	材質が硬く、優れた耐久性を持ち、木目も美しいことから、古くから建築や家具材をはじめとする木工に広く用いられた。
	じんだいけやき 神代欒	長い年月、地中や水中に埋もれていた欒。くすんだねずみ色の独特の風合いをもつ。
	タモ	比較的硬い木材で、家具のほか野球のバットやテニスラケットなどにも用いられる。
	とち 栃	軽く加工しやすいため様々な用途をもつ。緻密な肌理をもち仕上がりが良い。細かい波状の縞模様がみられる。

	なら 檜	優れた耐水性・防虫性を持ち、戦後に内装材や家具として用いられるようになる。丸太の中心から放射線状に切り出した ^{まさめ} 杙目面には、独特の模様、 ^{とらふ} 虎斑が表れることがある。
	ぶどうもく 葡萄杓	入り組んだ粒状の紋様が、ぶどうの房のように見えることから名づけられた。広葉樹などの古木にまれに現れる。
	ぶんかんぼく 文櫨木	異常生長により細かな美しい木目（綾目）のあるケヤキ材をさす。

「素材・貝」	しろちやうがい 白蝶貝	沖縄諸島以南の太平洋で採れる二枚貝。貝の内側は白く、強い真珠光沢がある。
	ようがい 耀貝	棟方志功により名づけられたメキシコ鮑の呼称。メキシコ湾からカルフォニア海南部で採れ、クジャクアワビともいう。耀貝を全面に施した作品は黒田の後年に多く見られる。

「道具(形状)」	ききよく 器局	茶器などを収める煎茶道具。茶道具を展示する目的でも用いる。
	きんりんじ 金輪寺	薄茶器の一種。黒田は金輪寺茶器を制作する際は蔦を使用した。かつて後醍醐天皇が蔦で作った茶器を金輪寺で使用したことになったともいわれる。
	こうこう／こうす 香合／盆子	茶事において茶室で焚く香をいれておく器。
	じきろう 食籠	茶会で蒸した主菓子を客の人数分だけ盛るために使用する器。
	しとう 紙刀	巻紙に文をしたためた後、紙を切り離す道具。ペーパーナイフ。
	じょうさし 状差	柱や壁に掛けて、受け取った手紙やはがきなどを入れる。レターラック。

	ずし 厨子	仏像、舍利、経巻を安置する両扉付の仏具。
--	----------	----------------------